

西アフリカにおける言葉の力： 日常～ポップス～文学を横断する諺

西アフリカの「マンデ」の人々。13世紀成立のマリ帝国の系譜を引く諸民族で、「グリオ」（語り部）が音楽化した「声の文化」を発達させたが、それは近代化の中でレゲエ等のポップスに、またフランス語による現代文学にも影響を与えている。諺に焦点を当てつつ、その様相を紹介する。さらに講師の夫人でもあるニヤマ・カンテがグリオの歌を実演する。

講師 鈴木 裕之（すずき ひろゆき）

国士舘大学法学部教授／文化人類学者
アフリカ音楽、特にグリオの音楽への造詣が深い。
著書に「ストリートの歌—現代アフリカの若者文化」、「恋する文化人類学者」（ともに世界思想社）など。



鈴木裕之教授



ニヤマ・カンテ氏

ゲスト ニヤマ・カンテ (Nyama Kante)

コートジボワール出身。
マンデ族の音楽継承者グリオ（伝統的語り部）。祖国では国民的歌手として知られる。



司会：永井 敦子
上智大学文学部教授

日時：5月17日(火) 15:25~17:05

Zoomによるオンライン開催

([GSP20240フランス文学入門Ⅱ] 受講の上智生は授業方針に準じて参加すること)

言語：日本語

対象：学生、教職員、一般の方



無料・要事前申込

主催：上智大学

お問合せ：上智大学広報グループ アフリカWeeks担当

un-weeks-co@sophia.ac.jp